



2010年  
7月発行

no.

# 87

## 特集

# 『好朋友』に託す メッセージ

ストーリー漫画を日本語教科書に取り入れて

2009年9月、中国の中学校向けの第二外国語用日本語教科書『好朋友 ともだち(試行版)』(以下、『好朋友』)全5巻が完成しました。日本のプロの漫画家による書き下ろしのストーリー漫画を主軸においた日本語教科書です。

身近な人をはじめ、さまざまな文化背景をもつ人びとと関係を築いていってほしいという願いから、『好朋友』では、教育理念として「人間関係の温暖化」と「多文化共生」の二つを掲げ、教科書の随所で理念を具体化していきました。

本特集では、どのように具体化していったのか例示するとともに、『好朋友』に託したメッセージを紹介し、日本語教育の可能性を探ってみたいと思います。



©幸森軍也・白井貴子/ダイナミックプロ

## 特集 p.1

### 『好朋友』に託すメッセージ

ストーリー漫画を日本語教科書に取り入れて

『好朋友 ともだち』がめざすこと

人との関係を紡ぎ、自己・他者理解を深めるために

多文化共生社会に生きる資質を育てるために

日本語を学んで広がる世界

『好朋友』を使って

## シリーズ p.10

Close up! TJFウェブサイト ⑥

英語で発信!

## TJFニュース p.12

「好朋友特使」が大連の中学生と交流しました

高校生を対象に土曜中国語講座を開催しました ほか

## お知らせ p.16

# 『好朋友ともだち』がめざすこと



2006年4月、中国遼寧省大連市は小中高校における日本語教育奨励策を発表し、中国の行政として初めて中学校に第二外国語(二外)としての日本語教育を導入しました。TJFは大連市教育局の要請を受け、大連教育学院と共同で、2006年11月から二外用の日本語教科書『好朋友ともだち(試行版)』(以下、『好朋友』)の編集制作に取り組み、2009年9月までに全5巻を完成させました<sup>★注</sup>。現在大連市の26の中学校で約5,500人の中学生が『好朋友』で日本語を学ぶなど、わずか数年間に二外としての日本語教育は広がりを見せています。

## 「人間関係の温暖化」と「多文化共生」を理念に掲げて

『好朋友』を編集するにあたって教育理念として掲げたのが「人間関係の温暖化」(pp.4-5参照)と「多文化共生」(pp.6-7参照)でした。日本語学習を通じて、日中の同世代間の交流と相互理解のためのコミュニケーション能力を身につけさせるとともに、異なる文化を尊重する態度を育てること、多文化共生社会に対応できる資質を形成することをその教育目標としました。

## ストーリー漫画を軸に採用

日本の漫画の特徴といえるストーリー漫画を教材の軸におきました。日本のアニメや漫画は、海外の若い世代が日本語学習を始める大きな動機づけとなっているため、日本語教材でよく活用されていますが、102ページにおよぶプロによる書き下ろしのストーリー漫画を5巻の教科書に連載する形式は、類例がないといえます。

理念を教材のなかで具体化し、目標を達成するために以下の挑戦をしました。

### 漫画をどう生かしたか

理念を実現するために、ことばや文化の違いを超えて友情(人間関係)を築いていくことを漫画のストーリーのテーマにするとともに、学習者が日本の中学生とのであいを疑似体験できるようにしました。あくまでも漫画として読んで楽しいものであることを重視しながら、漫画のストーリーや台詞を考える際に、教材としての工夫をこらしました。

- ① 従来の初級教材ではあまり取り上げられなかった、人間関係づくりに役立つことば(pp.4-5参照)を積極的に導入した。
- ② 内容重視型の話題シラバス(p.7右下参照)を採用し、中学生が関心をもつ話題を、日本語学習の順番を考慮しながら、自分を中心とする同心円状(pp.6-7参照)に広がるように配置した。
- ③ 文化理解の視点を導入するために、ストーリーのなかでさまざまな文化事象や事物を提示した(pp.6-7参照)。

### なぜストーリー漫画なのか

漫画には、学習の動機づけだけではなく、日本語や文化の学習にも効果的な側面がたくさんあります。

- ① 絵と日本語・中国語混在の台詞があるので、初級学習者であっても、ストーリーや日本語の台詞などの意味を想像しようとしたり、その想像した意味を確かめようとしたりするなど自律学習を促すことができる。
- ② ストーリーや絵から、登場人物の感情、文脈(ことばが使われる場面や状況)に即したことばを学ぶことができる。また、漫画に盛り込まれた文化事象や事物を理解することができる。
- ③ 漫画のストーリーがそのまま学習活動の内容となるので、内容重視の学習活動が自然に展開できる。
- ④ 漫画に出てくる台詞や擬音語・擬態語(ガチャ、ドキドキ、シーン等)が、文字や生き生きとした日本語の学習に役立つ。

### 学習活動の展開の方法

各課では、漫画のなかから主題となるコマを取り出し、それを基に学習活動を展開しています。従来の文法中心の教育方法ではなく、学習者が日本語でどんなコミュニケーションができるようになるかを記述した能力記述文(can-do statements)によるコミュニケーション能力の達成目標を各課に設定したうえで、その目標を達成するための学習者参加型のコミュニケーション活動を提示し、必要な語彙や表現を導入しています。また、これらの目標は、それが達成できたかどうかを測ることで、評価としても利用することができるようにしてあります。

**★注:** 正式には副読本。二外は週1~2コマの学習時間が設定されていることから、1学年で『好朋友』第1、2巻を、2学年で第3、4巻を、高校受験を控えた3学年では前期分に第5巻を学習することを想定している。

# 『好朋友』の構成

仕様、発行年月、部数：

B5判・カラー（第1巻 126ページ、2007年8月、5,000部 / 第2巻 128ページ、2008年3月、6,000部 / 第3巻 128ページ、2008年8月、6,000部 / 第4巻 120ページ、2009年6月、5,300部 / 第5巻 128ページ、2009年9月、5,300部）

発行：外語教育と研究出版社（北京）

## 巻頭グラビア（各巻／5ページ）

日本語を学ぶことで広がる世界を、写真とメッセージで伝えている（詳細はp.8参照）。



## 漫画（各巻／20～22ページ）



©幸森軍也・白井貴子 / ダイナミックプロ

### ストーリー

父親の転勤で大連の中学校に転校した日本の中学生高橋美佳と5人の中学生の友情物語。学習者にとって身近な内容となるよう、大連を舞台に6人の日常生活を描いた。海辺での美佳と王志鵬との出会いに始まり、学校生活、美佳の家での誕生日会、街での買い物、サッカーの試合の応援、大連郊外への小旅行などを通じて友情を深め、最後は美佳の帰国という別れで終わる物語。

## 課（各巻6～7課／56～69ページ）

### トピック場面

漫画から、各課のトピック／話題に関係する場面を抜き出して内容を導入している。登場人物の気持ちを想像したり、日常生活や言語習慣を振り返ったりすることを通じて学習意欲を引き出し、学習活動に自然に入れるようにしている。

### 学習活動

各課の学習到達目標を達成するため、多様な学習活動を提示している（pp.4-7参照）。文脈に沿って日本語が使えることをめざし、必要な語彙や表現を自然に導入している。文法説明はない。

### コラム

各課のトピック／話題と関連する文化事象を、豊富な写真と文章で提示している。さまざまな角度から文化事象にアプローチし、文化を見る視点および多文化理解の資質を養う。（pp.4-7参照）

### 考えてみよう・言ってみよう

各課で学んだ表現が復習できる。

### 日本語広場

「擬音語・擬態語」「おにぎり」「歌」など、日本語や日本に関することについて、楽しみながら考えたり、体験したりする。

### 日本語とのであい（第1巻1～3課）

日本語の文字の種類や、日本語と中国語、日本語と英語のつながりを考えるような活動を掲載している。学習者は活動を通じて、日本語の音や文字について、自ら発見しながらふれていく。

### 文字の導入（第1～3巻）

第1巻でひらがな、第2巻でカタカナ、第3巻でローマ字を扱っている。あいうえお順の提示ではなく、課で習った表現や語彙を読んだり書いたりできるように順を追って提示している。

## 振り返り（第2巻、第4巻、第5巻のみ／7～9ページ）

「登場人物の気持ち」と「場面を表す絵」をいっしょに提示している。学習者は登場人物になりきって学習した表現を復習したり、その習熟度を自己評価したりすることができる。

## 合作・交流・展示～学習成果発表～（各巻／1～2ページ）

「自己紹介のビデオを作って、ほかの学校と交換しよう」など、学習したことを再構成して発信する総合的な活動例を紹介している。活動例は学習に対する評価の例でもある。

## 付録（連想法を取り入れた五十音表、語彙表、参考語彙、表現一覧ほか／15～23ページ）

理念をどう具体化したか①

# 人との関係を紡ぎ、自己・他者理解を深めるために

身近な人をはじめ、さまざまな文化背景をもつ人とも関係を築いていってほしいという大連の教育関係者の願いが、「人間関係の温暖化」という理念で表現されています。人と人をつなぐことばの重要性に着目しているからこそ生まれた

理念でもあります。

この理念にもとづき、『好朋友』では漫画、学習活動、コラムそれぞれに、人との関係を紡ぐことを考慮した内容を積極的に取り入れました。

## 漫画「大連物語」

主人公のひとり、美佳は転校した大連市の中学校で、中国人の中学生や韓国の留学生とであります。お互いにことばがわからず戸惑いながらも、友だちになりたいという気持ちから次第につながっていく、というストーリーです。漫画の力を借りることで、その様子を鮮やかに提示することをめざしました。



## コラム

コラムの多くは、世界の中学生と自分の日常の生活文化を比較しながら、自分(自文化)や他者(他文化)への理解を深めていくことをねらいとしたものなど、文化理解(pp.6-7参照)を念頭においていますが、人と人とのつながりを考えるものや、人間関係の構築につながる題材なども取り上げました。

### 第2巻8課「ボディランゲージ」の例



日常生活を振り返って、ボディランゲージがコミュニケーションにおいてどのような役割をもつかを考える。

### 第3巻20課「友だち」の例



日本、中国、アメリカの中学生を対象とする「友だちとして大切な性格」に関する調査結果を見ながら、自分にとって友だちはどんな存在なのか、自分と友だちの関係について考える。

# 学習活動

日本語を使って何ができるようになるか(能力記述文/can-do statements)を各課の目標として明確に設定し、目標達成のための多様な学習活動を提案しています。それらの学習活動は、一方で自己理解、他者理解をめざしています。学習者は架空のコミュニケーションではなく、実際の状況(していること、考えていること、感じていることなど)に即して、クラスメートとやりとりをしながら、改めてクラスメートについて理解を深めることができます。身近なクラスメートとの関係を紡ぐこ

とが、多様な人との関係を紡ぐことにつながっていくのです。

さらに、声かけのことば、ほめることば、相手を思いやることば、相手の発言に応えることばなどを多く導入しています。これらは、初級ではあまり扱っていないことばですが、人との関係を紡ぐためには重要だと考えました。また、人との関係を紡ぐための態度の養成をめざしています。

## 第3巻18課「ほめる」の例

### トピック場面



### 学習活動例1



トピック場面で「ほめる」という言語行動について考えたことを踏まえ、学習活動に入る。第2巻までの漫画にでてきた五つのほめる場面を抜き出し、それぞれ吹き出しを空白にして提示することで、もし自分だったらどうほめるだろうかと考える。また、実際の自分の日常生活における「ほめる」という言語行動を振り返る。これは、次ページから始まる日本語を使った「ほめる」活動への橋渡しの役割も果たしている。

誕生日の日、張婷が、ふだんとは違う服を着てきた金恵蘭をほめる場面をトピック場面としている。それと同時に張婷や金恵蘭の気持ちについて問いを投げかけ、学習者はほめること・ほめられることが心理的にどんな影響を与えるかを考える。

この課における日本語のコミュニケーション能力の達成目標の一つ:「相手が上手にできることや、相手が着ている服や身につけているもの、持っているものなどについて、ほめることができる。また、それに対して感謝することができる」

### 学習活動例2



相手の持ち物、できること、得意なことなどをほめる。ほめられる側は感謝のことば以外は口にせず、しっかり相手のいうことを聞く。相手が自分をほめるのを聞くことで自己肯定感を高めることができる。また、ほめるために必要な、相手を観察したり知ろうとしたりする態度の養成につながる。さらに、グループになって順番にクラスメートをほめる活動は、クラスメートの新しい側面を知るきっかけにもなる。

### 考えてみよう・言ってみよう



友だちの持ち物や服、行動に対する気持ちが吹き出しに中国語で書かれている。その中国語と絵を見ながら、こういうとき日本語ではどうほめるのかを考え、その表現を確認する。

## 第4巻25課「気づかう」の例



身体の調子が悪いときや落ち込んでいるときに、友だちに声をかけてもらえたらどんな気持ちになるか、自分自身は友だちに声をかけているかなど、自分の日常を振り返るような問いかけをしている。人間関係をつくるうえで声をかけることが大切であると気づく。「どうしたの/ちょっと悩んでいるんだ/そうなんだ。元気出して」など、初級レベルではあまり扱っていない表現を取り上げている。生徒たちに元気がないのは、身体の具合より心理的な悩みが原因となることが多いことから、そういった相手の気持ちを推し量り、さらに一歩踏み込んで慰めのことばがかけられるようになることが必要だと考えた。

## 第3巻19課「遊ぶ」の例



遊ぶときによく使う日本語を、実際に遊びながら使ってみる。これは、遊びの輪に加えてもらおうと声をかける場面。

## 第3巻20課「性格」の例



「自分から見た自分の性格」と「友だちから見た自分の性格」を比較することを通じて、自分を再発見する。また、身近な人について書くことを通じて、その人に対する自分の気持ちを整理して表現する。



それらの事象を題材に、文化の相違性や共通性に気づいたり、それらの要因について考えたりする過程を通じて、共感性が深まったり、文化の変異性や多様性を認識したりするように文化事象を組み込んでいます。さらに、比較する対象も、日中だけでなく、韓国やその他の国、中国国内や日本国内の地域、クラスメートや世界の中学生と自分などさまざまなものを提示しています。

こういったことを通じて、学習者が固定観念や偏見にしばられず、世界にはいろいろな事象や考え方、ものの見方があることを発見し、自分を振り返ることを通じて視野を広げていくことを期待しています。そして最終的には、さまざまな背景をもつ他者とつきあう力や自分を認識し調整できる力を養ってほしいと考えています。これらの考えは、漫画、学習活動、コラムそれぞれの内容に反映されています。

**第2巻9課(食)学習活動**

自分と友だちの食生活を比較しながら、それぞれの個文化の共通点・相違点を考えることができる。この課のコラムでは、日本の2人の中学生の食生活が紹介されているので、日本のなかの多様性に気づくとともに彼らと自分たちを比較することもできる。

**第3巻15課(訪問する)学習活動**

世界の中学生の家を訪問するという疑似体験ができる。日本の中学生の家では、玄関で靴を脱ぐのかどうか迷ったり、スリッパのまま畳の部屋に入ろうとして注意されたりする。韓国の中学生の家では、家に2種類の冷蔵庫があることに気づく。また、モンゴルの中学生の家では、じゅうたんが壁にかかっていることに驚く。ここでは、ほかの人の家に行ったときに感じる戸惑いに対応すべきか考えたり、日本をはじめ世界の住習慣を比較し、その共通点や相違点を考えたりする。

わたし      学校      家庭      地域      世界

わたしを起点に同心円状に広がるトピック/話題

**ナミズムをとらえる**



**第1巻**

転校初日の美佳に、金恵蘭が数を表すジェスチャーを交えて自分の誕生日を伝えようとするが、美佳にはそのジェスチャーの意味がわからない。文化によるジェスチャーの異同に気づく。この場面を利用して学習活動で数詞を導入している。



**第3巻**

日本人の美佳をはじめ、大連の友だち、韓国の留学生も招かれているパーティーの食卓には、日中韓の料理のほか、フライドチキンのような若い世代が共通して好む料理が並んでいる。文化の多様性を受け入れ、楽しみ、調整することの重要性を学ぶ。

**トピック/話題**

5巻を通じて、中学生が関心をもつトピック/話題を採用している。各巻の漫画の場面が学校、家庭、地域へと展開するにしたがって、トピック/話題は自分を中心に同心円状に広がっていく。

**トピック/話題**

第1巻	であい/自己紹介/パーソナルデータ/ 好きなこと/できること/気持ち/好きな場所
第2巻	あいさつ/食/家族/持ち物/時間割/ 一日の生活
第3巻	誘う/訪問する/贈る/招待する/ほめる/ 遊ぶ/自分を発見する・気持ちを表す
第4巻	余暇/約束/おすすめ/買い物・外食/ 健康/応援
第5巻	歓迎/(旅行)計画/お土産/記念/別れ/ 夢

# 日本語を学んで広がる世界

5巻それぞれのグラビアページでは、日本語(外国語)を学ぶ意義や学習者に向けてのメッセージを伝えています。

第1巻のテーマは「世界の中学生とのであい」。アメリカ、オーストラリア、韓国、モンゴル、ロシアの5ヵ国で日本語を勉強している中学生、そして日本で中国語を勉強している中学生と初めてであうページです。各国の中学生は、いろいろな場面で登場します。第2巻では、学校生活と日常生活を紹介しています。このように5巻を通じて同じ人物が登場するので、友だちになる過程のように、少しずつ各国の中学生のことを知ることができます。日本だけでなく世界中の国や地域、そこに住む人に興味や関心をもってもらうことをねらいとしています。

第3巻では、「世界の衣食住」をテーマに、前述の中学生が住む6ヵ国のほか、さまざまな地域を取り上げています。ここでは、地域や年代という視点で衣食住を観察することをねらいとしています。例えば、中高校生が着ている衣類は国の違いを超えて共通点が多いことに気づいたり、都市部の住宅は国や地域が違っていても共通していることに気づいたりすることができます。

第4巻は、「日本に生きる中国人・中国に生きる日本人から、日本語を学ぶ中学生へのメッセージ」をテーマとしました。留学生、語学教師、環境問題に取り組む人、日本で相撲に取り組む中国人、日本で二胡を演奏する中国人、中国で京劇を演じる日本人など、さまざまな分野や年齢の、日中をつなぐ先輩から寄せられた、人として大切なこと、外国語を学ぶと活躍の場が世界に広がることなど、多くのメッセージを紹介しています。

第5巻は「これからの世界をつくるわたしたち」。現在、一

国では解決できないさまざまな問題が起きています。国や文化の違いを超えて共に協力するときに必要なのは、「ことば」です。災害時の国際協力や宇宙での新薬開発など、さまざまな国や地域から国を超えて人が集い、活動する場面を写真で紹介しています。未来に向かってこれからの世界をつくっていくのは自分たち同世代の仲間なのだ、ということを考えてもらうことを願っています。

## 未知なものとのであい

～人とのであい、文字とのであい～

外国語を学ぶということは、さまざまな未知なるものとのであいを意味します。『好朋友』ではさまざまなであいを随所に取り入れました。

まず、外国語を学ぶ喜びとして、未知の人とであう可能性が広がることをあげることができるでしょう。そして、未知なる文字とであうことも、外国語を学ぶことで得られるダイナミックな経験です。そのときに味わう、わくわくする気持ちを学習に結びつけたいと考え、第1巻1～3課に「日本語とのであい」というコーナーを設けました。楽しみながら日本語の文字の特徴を発見していけるような活動を提示しています。また、下図のような連想法を利用した五十音図も巻末に掲載しました。これは、ひらがな一文字に、音と形が似ている母語の文字を結びつけて覚えられるようにしたものです。学習者たちはこうして、楽しみながら日本語の文字の音や形にであっていきます。



「く」の形は泣いている人の口の形に似ています。また、「泣く」は中国語では「哭」、発音はkūです。「泣いている人の口」の形と「哭」の音を結びつけて、ひらがなの「く」を覚えることができます。



第1巻のグラビア。日本語を学ぶ世界の中学生(左)や中国語を学ぶ日本の中学生(右)とであう。

## 『好朋友』を使って



### 生徒の声

- 漫画を使って勉強するのはリラックスできます。
- 漫画が好きです。この漫画は友だち同士が助けあうという気持ちを表現しているから。
- わたしは、この漫画の絵に夢中になっています。登場人物が生き生きと描かれていて、性格もはっきりわかります。例えば、美佳は日本人の生徒だけど、クラスメートとのコミュニケーションがとれていて、周りからも認められています。また、ことば、動作、表情、心理描写を通して、活発でかわいくて、鷹揚、聡明で、鋭敏な一人の日本の女の子だということがわかります。
- 漫画はわたしたちの目をひきつけます。漫画が日本語を理解する助けになっていて、日本語の勉強がとてもドラマチックになっています。主人公の王とわたしたちは似ているところが多いので、漫画にリアリティを感じ、とても印象深いです。
- 学習活動が好きです。友だちと交流しながら日本語を話す体験ができるからです。
- コラムが好きです。多くのことを知ることができて、視野が広がるからです。
- ひらがなを連想法で勉強すると、先生に教えてもらわなくても、発音がわかるからおぼえやすい。

### 教師の声

- 漫画があると、日本語に対する生徒の興味や関心を高めるだけでなく、勉強する内容の理解を助けてくれます。
- 漫画はことばの使われる具体的な場面を詳しく、そして生き生きと描き出すことができます。
- 漫画を利用すると、ことばが使われる状況がわかるので、理解しやすい。
- 漫画は日本語だけでなく、文化や風俗なども学ぶことができます。
- 漫画で探究心を刺激することができます。また、教師は教室の雰囲気やうまく変えることもできます。それに、漫画を見て生徒からいろいろな質問が出るので、その質問を通して授業を進めることができます。生徒はときどき、自分を主人公に置き換えたりしています。だから、教えやすいです。
- わたしは生徒たちが日本のファッションやアニメにこれほど夢中になり、興味や関心をもっているとは思いませんでした。わたしは日本語を教えるとき、中国語と日本語の文字の相似点をまず教えるものだとばかり思っていたのですが、生徒たちは日本のモノに興味や関心をもっていて、それが日本語を勉強する動機になっているのです。生徒たちが積極的に学ぼうとするので、教師は教えるのが楽です。ことばを教えるのであれ、学ぶのであれ、動機は重要だと思います。

生徒や教師のコメントは、2009年6月に大連市内の中学生31人、教師10人を対象に行ったアンケートをもとにTJFが抜粋、編集した(原文は中国語)。アンケートの結果は全豪現代言語教師連合研究大会(2009年7月)で初級日本語教科書におけるストーリー漫画活用の試みとその効果」(研究発表者:藤光由子、中新井綾子、楊慧、大船ちさと)のなかで発表された。

## 教室の外とつながる生徒たち

『好朋友』で日本語を学んでいる生徒たちは、大連市内の小中高校生を対象に開かれる日本語学習成果発表会(年1回)に参加します。そこで、一外として、あるいは双語<sup>★</sup>として日本語を学んでいる生徒とであったり、2010年3月には、好朋友特使としてやってきた7人の日本の中学生と交流したりする(pp.12-13参照)など、教室の外に飛び出し、他校の生徒とであい、世界を広げています。



(上)日本語学習成果発表会での展示。(下)好朋友特使が大連を訪問した折、日中の中学生が書道作品を共同で制作し、友情を深めた。

★注:英語と日本語をそれぞれ一外として同じ時間(週4~5コマ)学習する。

## 編集体制

日中双方に編集委員会を設置し、通常はEメールや電話でやり取りし、年に何回かは日中合同編集会議を開いて編集作業を進めました。ときには、市内の中学校の教師たちからアイデアやアドバイス、素材の提供を受けました。制作にあたっては、多くの日本の企業や団体から資金の提供を受けました(詳しくは本誌第85号をご覧ください)。

中国側編集委員会:張濤(大連教育学院副院長)\*、楊慧(大連教育学院)、金尚笋(金州区教師進修学校)、李芷苓(大連市第34中学)、張玲(大連市第30中学)、宋曉峰(大連東方実験中学)、楚喬(大連教育学院、第3~5巻)、森田淳子(元青年海外協力隊日本語教師隊員、編集協力アドバイザー:第1~2巻)

日本側編集委員会:加納陸人(文教大学教授)\*、中新井綾子(日本語教育専門家)、大船ちさと(日本語教育専門家、第2~5巻)、藤光由子(国際交流基金派遣日本語教育専門家、第1~2、3~5巻は編集協力アドバイザー)、今井なをみ(早稲田大学、編集協力アドバイザー)

所属、肩書きは第5巻発行時のもの。

\*は編集委員長。

本特集では、中新井綾子氏、大船ちさと氏から執筆協力を得ました。

# Close up! TJFウェブサイト

6

<http://www.tjf.or.jp>

## 自分のことや身のまわりのことを伝える 英語で発信!

人や物、情報の移動がますます加速する現代にあって、世界各地の人びととともに働き、暮らしていくために英語で自己表現し、対話することが必要となっています。今や発信型の英語教育が求められているのです。

TJFは、日本に関する情報を英語で発信してきました。そのなかから、日本の小中高校生が、身近な話題について英語で発信するときに役立つウェブサイトを紹介します。

### 自分について伝える

#### 人物を紹介する記事

自分が体験したことや考えたことを英語で伝えるときに参考にできます。

**Culture and People of Japan**

**Sharing the Fun and Fascination of Shodo**



**Aika**  
(Shodo Club, Kawaguchi High School, Saitama prefecture)

I really love *shodo*—the practice of Japanese calligraphy done with a brush—and have been taking lessons since I was in third grade. I want everyone to know how much fun it is and how fascinating it can be.

(Photo P24-1)  
OTJF

書道が大好きで、小学校3年生の頃から書道教室に通っています。書道の楽しさや魅力をたくさんの人たちに伝えていきたいです。

At the private shodo lessons I saw a work done by a member of the Kawaguchi High School Shodo Club in an album of works done at "Sho no Koshien," an international high school shodo competition. Until then I had thought of shodo as something to be done faithfully, as close to orthodox brushwork as possible. But this work was completely different. Its powerful lines and dynamic strokes completely changed my image of shodo. I decided that I really wanted to join the shodo club to which that student belonged, so I entered Kawaguchi High School.

### くりっくにっぽん [www.tjf.or.jp/clicknippon/ja/](http://www.tjf.or.jp/clicknippon/ja/)

海外の小中高校生が興味をもつトピックを取り上げ、日本語、英語、中国語の3言語で紹介しています。文化(事象・事物)を紹介する記事と人物を紹介する記事をあわせて提供することで、日本について、マクロの視点とミクロの視点から多角的に紹介しています。



Resource No.	Topic	Overview	Categories	Class
Level 24	Shodo: An Old and New Form of Self-Expression	Calligraphy done with a brush and sumi ink—shodo—is a familiar part of Japanese life. Introduced from China around the eighth century, over the centuries shodo evolved in distinctly Japanese styles. Inspiring from subjects in the past, shodo brings people energy to improve their handwriting and their private shodo lessons as well. Shodo involves not just improvement of technique, but the pursuit of beauty and understanding of the self. It is a pursuit with a long tradition that has won renewed attention today as a means of self-expression.		J/E/C
		Sharing the Fun and Fascination of Shodo		

### 日本の小学生生活 [www.tjf.or.jp/shogakusei/index\\_j.htm](http://www.tjf.or.jp/shogakusei/index_j.htm)

#### 「6年1組」の自己紹介

日本の小学生17人の自己紹介を、日本語、英語、中国語の3言語で読むことができます。小中高校生が、はじめて自分のことを英語で伝えるときに参考にできます。



はじめて英語で書く

My nickname is "Saya." My hobby is reading manga. I go to the bookstore once a month and buy girls' comics that look interesting or books or magazines. Also, I like listening to music.

私のあだ名は「さや」です。趣味は漫画を読むことです。月に1回は本屋さんに行って、おもしろそうな少女漫画、時には本や雑誌を買います。あと、音楽をきくことも好きです。



### であい [www.tjf.or.jp/deai/](http://www.tjf.or.jp/deai/)

自分を見つめる

#### 「マイ・ストーリー」

日本の高校生7人の自己紹介です。自分を見つめ、一歩踏み込んで考えながら、英語で書きたいときに参考にできます。



**水島優**  
Yoshiyuki Mizushima

Photo  
Video  
▼ My Story

- わたしはこんな人 / Me in a Nutshell
- おいたち / Growing Up
- 高校生活 / High School Life
- 将来について / My Future
- 家族・友だち / Family and Friends
- わたしのまち、横浜 / My Town: Yokohama

# 日本について伝える

## 文化(事象・事物)を紹介する記事

今、日本で話題になっていることを取り上げ、さまざまな視点から紹介しています。統計データや写真を盛り込み、読みやすいコラム形式にまとめています。日本語版と英語版をあわせて使えば、調べ学習やディスカッション、ディベート、交流学習など、英語を用いたさまざまな活動に役立ちます。

### Culture and People of Japan

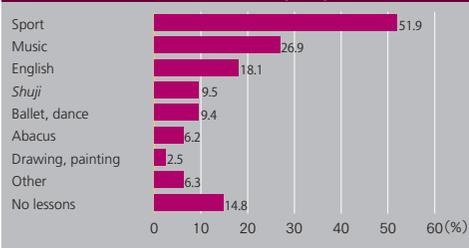
#### Sharing the Fun and Fascination of Shodo

#### Calligraphy in Daily Life

#### Private Lessons

Among elementary school students *shuji* is the fourth most popular private lesson (*naraigoto* 習いごと), after music, English, and sports like swimming. The number who continue to take *shuji* or *shodo* lessons...

Breakdown of Private Lessons Taken by Tokyo Children



#### 身近な毛筆

#### 習いごと

習字や書道は、習いごととしても人気があります。特に、小学生では水泳などのスポーツ、音楽、英語について4位です……

### 英語でディスカッション!

割箸に賛成? 反対?

Are you for or against using disposable chopsticks?

—「身近なエコ活動」の記事より

### 取り上げたトピック

- ・書道：古くて新しい自己表現
- ・甲子園：高校生が輝くステージ
- ・「ご当地」大好き!
- ・コミュニケーションツールを超えた携帯電話
- ・身近なエコ活動
- ・進む道を探して：中高校生の進路
- ・世代を超えて楽しめるゲーム
- ・身近になったボランティア活動
- ・写真：日本人の日々の楽しみ
- ・動物たちからの贈りもの
- ・人と共生するロボットの開発
- ・いま注目される伝承遊び
- ・根づいたサッカー人気
- ・コンビニを通して日本を見る

大学入試の英語の読解問題として使われました。

<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/ja/jcn/index.html>

# Takarabako

「Japanese Culture and Daily Life」 [www.tjf.or.jp/takarabako/jcdl.htm](http://www.tjf.or.jp/takarabako/jcdl.htm)

多くの日本人にとって身近な生活文化を英語で紹介しています。

### 取り上げたトピック (英語版のみ)

日本のファーストフード／若者ことば／おこぼかい／雨／クラブ活動／色／花見／年越し／旬の食べもの／お盆休み／年賀状／米／包む／お弁当／お風呂／お茶／靴脱ぎ



### 身のまわりのことを伝える

「ミニ事典」 [www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

「であい」の「教師のためのサポート情報」コーナーにある「ミニ事典」は、写真教材『であい：7人の高校生の素顔』の写真に写っている高校生の日常生活を海外向けに解説しています。日本の文化、社会、教育などについて英語で簡潔に紹介するとき役立ちます。



### 花火大会／はなびたいかい／Fireworks

Summer is the time for fireworks in Japan and grand displays are put on all over the country. (snip) Young Japanese women in their teens and early twenties like to wear the traditional yukata, an unlined cotton summer kimono, when they go to watch a fireworks display.

夏になると各地で納涼花火大会が催され、趣向をこらしたさまざまな色や形の花火が打ち上げられる。(中略)最近、花火大会に浴衣を着て見に行く10～20代の女性が多い。

世界の中高生に発信するなら

「つながーる」

[www.tsunagaru.com](http://www.tsunagaru.com)



無料で安全な交流ウェブサイト

現在、約15カ国から1,400人以上の生徒が参加しています。自分が言いたかったことを英語で伝えることができたとき、ことばを学ぶ意味を実感できるのではないのでしょうか。

# TJFニュース

「TJFニュース」では、TJF（国際文化フォーラム）の活動報告や、事業に関連するさまざまな動きをニュースとしてまとめ、お伝えしていきます。

## ■中学生大連派遣事業

### 「好朋友特使」が大連の中学生と交流しました

TJFが中国遼寧省大連市教育局の要請を受け、2006年11月より大連教育学院と共同で編集制作に取り組んできた、中国初の中学校向け第二外国語教育用日本語教科書『好朋友ともだち（試行版）』全5巻が2009年秋に完成しました。この完成を記念して、同事業の助成団体の一つである（財）かめのり財団の委託を受け、3月に日本の中学生7名を「好朋友特使」（以下、特使）として大連に派遣しました。

5巻の教科書に掲載されているストーリー漫画の主人公が、父親の転勤に伴い大連に住むことになった横浜の中学生であること、大連を省内に抱える遼寧省が神奈川県と友好提携関係にあることから、神奈川県内の中学生を対象に募集しました。

当初、2009年10月中旬に実施する計画を立てていましたが、新型インフルエンザの流行もあって、大連側から延期してほしいとの要請を受けました。その後、大連側と協議を続け、2010年3月末に実施することができました。

本事業の目的は、大連市内で日本語を学ぶ中学生と交流したり、彼らと一緒に名所旧跡を見学したりすることを通じて、中国の人びとや中国の教育、社会、文化への理解を深めてもらうこと、さらには同世代の若者と日本語や英語を使ってコミュニケーションすることを通じて、外国語を学ぶことの意義、コミュニケーションの重要性について認識してもらうことでした。そのために、以下の3項目を事業に盛り込みました。

- ① 日本語教育実施校の訪問および生徒との交流
- ② 大連市内および郊外の名所旧跡見学
- ③ 伝統文化および現代の人びとの生活の体験（ホームビジット）

### 大連市内観光

[1日め]

大連を含む中国の東北地区は、日本と歴史的・経済的な関係が深いことから、7名の特使全員に、派遣前に大連と日本との関係を調べてもら



存建築物や日本風の建築物、林立する高層ビル群などを通じて、歴史と発展が共存する大連市を体感することができました。

#### 訪問場所

歴史を感じる：大連京劇院（旧東本願寺）、中山広場（旧大広場）  
発展を感じる：労働公園から眺める大連市街（高層ビル群）、星海広場（アジア最大の広場）

### 水族館見学

[2日め]

特使7名はペアを組むことになった大連市第31中学の生徒7名と対面し、一緒に大連市内にある水族館を見学しました。最初はお互いに緊張



していましたが、昼食時に男女14名が輪になりゲームを始めた途端に緊張がほぐれ、名実共に「好朋友（ともだち）」になりました。第31中学の生徒のひとりも事後の感想文のなかで、「あの昼食を境に緊張が解けた。国境はないと知った」と述べています。

### ホームビジット

[2日め]

現地の生活が体験できることから、出発前から特使全員が楽しみにしていたプログラムでした。第31中学の取り計らいで、各家庭で餃子の手作



り体験ができるように準備をしてくれており、7名全員が大人も含めた共同作業を通じて、中国人の優しさ、温かさを感じることができた、と述べていました。

### 大連市第31中学訪問

[3日め]

学校見学、体操・ダンス体験、日本語と美術の授業参加、英語や地理などの授業見学、学食体験など、特使7名にとってはすべてが初めての体験で驚くことばかりだったが、そのなかで最も印象に残っているのは、第31中学の

生徒たちの勤勉さだ、と全員が口を揃えて答えていました。第31中学の生徒たちはみな積極的で、生徒と教師双方向の授業が成立しており、自分たちの中学校ではあまり見られない光景に驚くと同時に、彼らの姿勢を学びたいと述べていました。



## 日中中学生交流会

[4日め]

交流会では、大連の中学生のほとんどが個人芸を披露しました。特使7名は、彼らの一人で舞台上立つ度胸に驚くと同時に、今度訪中する際



には何か個人芸を身につけてこなければ、と語っていました。交流会の最後に、主催者がプレゼントしたおそろいのTシャツに、サインやメッセージなどを書きあいました。3時間という短い交流でしたが、お互いに「好朋友」をつくるこ

とができました。

特使7名は帰国後、中国語が開設されている高校へ進学したり、中国語教室へ通ったりしています。来年高校受験を控えている生徒からは、中国語が開設されている高校への進学をめざしているとの報告も受けています。また、保護者からは「親子で一緒に日中の歴史を学ぶことができた。中学生の時期に貴重な経験をさせてもらった」、学校長や担当教員からは「生徒の成長を感じることができた。今後も何らかの形で協力させてほしい」との感想が寄せられています。本事業は、特使本人が成長したばかりではなく、大人たちも彼らとともに視野を広げることができた事業となりました。TJFは、今後も日中の中学生の交流が継続するようサポートしていく予定です。

(森本雄心)

派遣期間：	2010年3月27日(土)～3月31日(水)
主催：	財団法人かめのり財団
実施：	TJF
日本側協力機関：	神奈川県教育委員会、神奈川県公立中学校長会、横浜市教育委員会、横浜市立中学校長会、川崎市教育委員会、川崎市立中学校長会、財団法人神奈川県私立中等高等学校協会
中国側協力機関：	大連市教育局、大連教育学院、大連市第31中学、大連市第37中学、その他大連市内の日本語教育実施中学校
輸送協力：	ANA

## 参加した生徒の感想

大連で暮らす人びとは、中国人の日本人には冷たいというイメージとはほど遠く、みんな親切で感動しました。一番の思い出は、たくさんの好朋友ができたことです。この好朋友には大連でできた友だちだけでなく、日本の好朋友特使のメンバーも含まれています。**銀色の鎧(中2女子)**

私が中国と日本の違いがはっきりしていると感じたのは、学校だった。学力のレベルが違いすぎた。当たり前で英語が話せるのだ。授業時間は50分と、そこは日本と変わらないが、集中力の凄さに大圧倒された。でも中国の同年代の人たちはとても優しく、フレンドリーで、笑顔がとてもお似合いだった。**アンコロ(中3女子)**

正直、大連へ行く前はあまり中国に対してよいイメージがなかったけれど、5日間滞在して、それまでのイメージがだんだん変わっていきました。確かにまだ格差だったり環境のこざたりさまざまな問題はあるけれど、それ以上に食事や中国独特の文化、そして人びとの優しさなどを身をもって体験することができました。**るっぴー(中2女子)**

私は“違い”を見つけたとき、慣れてよく知っている物の良い面ばかり考えているのだとわかりました。そして、今までとの“違い”に対して悪い面を見たイメージを作ってしまったのだと思います。私はこれからは見つけた“違い”について、その理由を聞きたいと思います。そのために、私は思った

ことを自分と違う言語をもつ人に伝えられる語学を身につけたいです。そして、たくさんの人と理解し合い友だちになりたい。**ひーなー(中3女子)**

面接で「もし、あなたが中国に対して日本人が行ったことに対してどう思うか、と聞かれたら、なんと答えるか」と聞かれた。そのときは、「悪かったと思うと謝りたい。そして、これからの日中関係は私たちが作り上げていこう、と伝える」と答えた。でも、今は知識が限られていて、狭いものであったとわかった。だから、もっと私には多くの情報が必要だと思う。もっと時間をかけて考えていかないと、と思った。**あいら(中3女子)**

人は建物ではないので自分がどう思っても伝わらない。接しなければ伝わらない。僕たちはその部分に興味をもち集まった……はずなのに僕はできなかった。「異文化理解」の上には「相互理解」が乗っている。それができて初めてプロジェクトは完成したといえる。しかし僕自身は何も与えていない。与えてもらってばかりでは今回中国に来た意味がない。そして僕は決めた。この不足分は未来で返すと。**アルマ(中3男子)**

この5日にわたる好朋友特使としての活動では、多くの人とふれあい、交流し、仲を深めていくことができたと思います。以後の自分の目標は、まず、もっと多くの人と交流すること、そして、そのような考えをくれた中国についてもっと学ぶことです。**NARU(中2男子)**

#### ■日本の中国語教育関連事業

### 高校生を対象に土曜中国語講座を開催しました

中国語の講座を開設している高校は、全国の高校のなかでわずか12.3%にすぎず、学校で中国語を学ぶ機会がない高校生がたくさんいます。



©桜美林大学孔子学院

TJFは昨年度、そうした高校生にも中国語にふれる機会を提供したいと考え、土曜中国語講座「学んでみよう中国語！」を企画しました。この講座は、神奈川県私立中学高等学校協会の主催により実現しました。私立高校6校から25名の参加者があり、そのうち6名が、TJFが夏到北京で実施した第3回漢語橋：日本の高校生サマーキャンプに参加し、学んだ中国語を使ってさまざまな体験をしました。

今年度は、神奈川県内の私立の高校生に限らず、公立高校の生徒も含めて広く募集したいと考え、TJFと中国語教師研修を共催したことのある、桜美林大学孔子学院に企画を持ちかけ、同学院の主催で開講できることになりました。募集に際しては、神奈川県私立中学高等学校協会の協力を得ました。

初めての授業が行われた5月8日(土)、桜美林大学PFCに集まった生徒は男子生徒11名、女子生徒2名の計13名。講座を担当する**龚振**(こん・しん)先生が一人ひとりに受講の動機をたずねると、歴史や漢文が好きで興味をもった、中国語を勉強している母親から勧められた、将来を考えると中国語を学んだほうがいい、中国人の母親をもつ友だちと一緒に中国に行きたい、中国に行ってもっと中国語が話せるようになりたいと思ったなど、さまざまな答えが返ってきました。

全7回(1回2時間)の講座は、自分の名前を中国語で言うことから始まり、日常のあいさつや自己紹介など、ごく簡単な会話ができる力を身につけてもらうことを目標としました。クラス全体の学習熟度は回を重ねるごとに高まり、今回も受講者のうち6名が第4回漢語橋：日本の高校生サマーキャンプに参加することになりました。

(水口景子)

#### ■日本の韓国語・中国語教育関連事業

### 研修講師およびコーディネーターのワークショップを開催

TJFは、8月5日(木)から9日(月)まで桜美林大学において2010年高等学校韓国語中国語教師研修を実施します。研修に先立ち、研修の後半に組み込んでいる授業づくりのグループワークで、講師とグループコーディネーターが作業をリードできるように、同研修で主任講師を務める米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授を招いて5月15日(土)に東京でワークショップを開催しました。

今回のワークショップに参加した28名は、韓国語・中国語の「学習のめやす」がめざす言語教育とは何かを再確認し、その目標を達成するための学習活動とはどのようなものなのかを考えました。特に今夏の研修のテーマとなる、「学習シナリオ(一連の学習活動のことを指す)」という概念や、カリキュラムのゴールをまず設定したうえで、ゴールからさかのぼってカリキュラムをデザインする「バックワードデザイン」という概念を参加者全員で共有しました。またゴールと表裏一体の評価については、学習後に行う総括的評価と、学習過程で行う形成的評価をどのように行い、どのように学習者にフィードバックするかを検討しました。

参加者からは、カリキュラムのバックワードデザインや学習シナリオに関する質問が相次ぎ、興味深い概念であるので、もっと詳しい説明を聞きたいという声が多く寄せられました。夏の研修では、用語の定義や説明をより丁寧にする必要があることや、用語集や資料を事前に作成し研修生に配付する必要があることなど、研修に向けて参考となる意見を多くいただくことができました。

(中野敦)

#### ■中国黒龍江省教育代表団招聘事業

### 第二外国語としての日本語教育推進プロジェクトがスタート

TJFは、遼寧省大連市の中学校における第二外国語としての日本語教育(以下、二外日本語)推進プロジェクトの成果を踏まえ(本誌第85号参照)、大連以外の地域、特に東北三省(吉林省、黒龍江省、遼寧省)に、二外日本語を推進していくことにしました。2010年度内に、東北各省の教育行政関係者および二外日本語導入モデル校の校長等の日本招聘、二外日本語教師ワークショップの開催、各省のモデル校を対象に日本語教育専門家による巡回指導などを計画しています。

吉林省は10校程度、黒龍江省は2校、遼寧省（大連市以外）は10校程度のモデル校がすでに選定されています。日本招聘の第一弾として、黒龍江省教育庁副庁長を団長とする、モデル校2校の責任者を含む黒龍江省教育代表団一行9名を5月に、二外日本語導入モデル校の校長4名を含む遼寧省教育代表団一行5名を6月に、それぞれ5泊6日の日程で招聘し、日本理解を深めてもらいました。

### 日本の教育機関を訪問し交流

二つの代表団は滞在中に、教育行政機関や神奈川県内の中学校と高校を訪問しました。学校では、中国語の授業を見学したほか、中国語を学ぶ生徒や中国籍の生徒などと交流しました。

黒龍江省の代表団は、単位制システムの良さ、教師と生徒による双方向の授業、生徒の質問に答える

ことを教師の研修と考える姿勢、オープンスペース的な教職員室などに感銘を受けたようです。一方、遼寧省の代表団は、教師の評価システムについての意見交換、日本側から出された中国の教育事情に関する質問などが印象に残ったようで、両代表団とも有意義な交流の時間を過ごしました。

そのほか、東京都内や観光先の箱根で、来日してから覚えた日本語のあいさつを使ってコミュニケーションを図るなど、ことばを学んで交流する喜びを体感しました。

### 持続可能な日本語教育を求めて

中国の言語教育は、近年英語に重きをおきすぎ、英語以外の言語は軽視される傾向にありました。しかし、最近母語や自文化重視の揺り戻しがあり、さらに英語だけでなく複数の外国語を子どもに学ばせたいという保護者が増えているこ



（上）黒龍江省の代表団。神奈川県教育委員会を訪問し、意見交換した。（下）遼寧省の代表団は、高校茶道部でお茶を体験した。

となど、二外日本語を導入するのに好条件がそろったと黒龍江省の代表団は語っていました。一方、遼寧省の校長たちは、英語を苦手とする生徒に他の外国語の選択肢を与えたい、学校の特色として日本語教育を実施したいと考えていることもわかりました。

秋以降、教育行政関係者とモデル校の校長から成る吉林省教育代表団を招聘する予定です。

（長江春子）

### ■理事会・評議員会

### 2010年度第1回通常理事会・評議員会報告

去る5月28日（金）午前に理事会が開催され、2009年度事業報告および決算報告の承認の件、2010年度事業計画および収支予算書の変更案、新定款および同附属規定の修正案、公益財団法人への移行認定申請に関わる件について審議し、いずれも承認されました。引き続き同日午後には評議員会が開催され、理事会承認案件および公益認定後の最初の役員について承認されました。

2009年度は①中国大連市の小中高校における日本語教育支援プロジェクト、②日本の高校中国語・韓国語教育のための「学習のめやす」作成プロジェクト、③日本関連情報の海外への発信、④中高校生を対象とする中国語および韓国語の学習奨励・交流事業などを重点事業として推進し、当初の目標をほぼ達成することができました。

本年度は、こうした事業により注力するとともに、公益財団法人への移行認定取得に取り組んでいきたいと考えております。今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（岡崎憲行）

### 実施事業一覧（2010年4月・5月・6月）

- 『国際文化フォーラム通信』第86号発行（4月）
- 『小溪』No.44発行（4月）
- 高等学校韓国語中国語教師研修講師およびコーディネーター対象ワークショップ開催（5月／東京）
- 黒龍江省教育代表団招聘（5月／東京・神奈川）
- 「高校生のための中国語講座」協力（5～6月／神奈川）
- 遼寧省教育代表団招聘（6月／東京・神奈川）
- 2010年高等学校中国語教育全国大会後援（6月／富山）
- 『Takarabako』no.24発行（6月）
- 『ひだまり』第43号発行（6月）

## お知らせ

### 二外日本語担当教師向けの研修を開催します

TJFでは、2006年度より大連教育学院と共同で、中国で初めての中学校向け第二外国語教育用日本語教科書『好朋友 ともだち(試行版)』全5巻を編集制作し、大連市内の日本語教師を対象に研修会等を実施してきました。

今年度からは、大連での成果を踏まえ、東北三省(遼寧省、吉林省、黒龍江省)の現在日本語教育を実施している中高校、およびかつて実施していた中高校を中心に二外としての日本語講座の開設を支援することにしました。その一環として、『好朋友』を使って二外の日本語担当教師のための研修(『好朋友』ワークショップ)を実施します。

- 日時 2010年8月22日(日)～23日(月)
- 場所 中国遼寧省瀋陽市
- 対象 東北三省の中高校日本語(第二外国語)担当教師 30～40名
- 主催 遼寧省基礎教育教学研究研修センター、TJF

### 全国の教育行政関係者・校長の中国派遣事業への参加者を募集します

TJFでは、中国語教育に積極的に取り組んでいる地域の教育行政関係者、中国語教育実施校および中国理解教育や中国との交流に関心をもつ学校の責任者に中国を訪問してもらい、中国の教育現場を視察するとともに、中国の教育行政関係者や学校長と交流するプログラムを2008年度より実施しています。2008、2009年度にはそれぞれ、神奈川県と東京都の私学協会の協力を得て、私立の中高校の理事長・校長を含め、14名を中国に派遣しました。

2010年度は、文部科学省の協力を得て、全国の公私立の高等学校と都道府県の教育行政機関などを対象に参加者を公募します。

- 派遣時期 2010年11月22日(月)～26日(金) 4泊5日
- 派遣先 北京市
- 参加費用 57,000円\*+燃油サーチャージ  
\*往復国際運賃、海外旅行傷害保険、事務局運営費を含む。  
なお、北京滞在中の費用はすべて中国政府負担
- 募集人数 40名
- 主催 中国国家漢弁
- 実施 TJF
- 後援(申請中) 在中国日本大使館、駐日本中国大使館教育処
- 協力 文部科学省

募集要項等詳細は、TJFウェブサイトのトップページ「お知らせ」コーナーでご確認ください。[www.tjf.or.jp](http://www.tjf.or.jp)

### 「TJF Photo Data Bank」、flickrへ移行!

「TJF Photo Data Bank」は7月15日をもって運営を終了しました。中国編に掲載していた写真を引き続き中国語や中国理解の授業に活用していただくために、「TJF Photo Data Bank China」をオンライン写真検索サイト flickr にオープンしました。引き続きご利用ください。

☞ [www.tjf.or.jp/notice/pdbc/index.html](http://www.tjf.or.jp/notice/pdbc/index.html)

日本編については、今後「TJF Photo Data Bank Japan」(仮称)を flickr にオープンする予定です。下記 URL では、日本関連の写真を検索できるサイトを紹介していますので、ご利用ください。

☞ [www.tjf.or.jp/notice/pdbj/index.html](http://www.tjf.or.jp/notice/pdbj/index.html)

## 編集後記

TJFは海外の小中高校における日本語教育を支援してきたが、小中学校となれば当然各国の義務教育の範疇ともなり、相手国・地域の教育基準に沿って日本語教育を考えなければならない。当該国・地域の教育行政機関あるいは関係者が、TJFと異なる考え方をもっている場合には、TJFとして難しい調整を迫られることになる。

今号で取り上げた日本語教材『好朋友 ともだち(試行版)』(全5巻)の編集・制作プロジェクトについては、大連市教育局と教育理念および言語教育に対する使命感を共有できたことは有難いことだった。互いのことばと文化を学ぶことを通じて日中の中学生をつなごう、というTJFの提唱に対して教育局も賛同し、教材の教育理念として「人間関係の温暖化」と「多文化共生」を掲げた。その会合は忘れられないものとなった。身を削るような仕事ではあったが、やりがいのあるプロジェクトだった。

日本語教育が中国の子どもたちのグローバル教育に貢献し、日中の子どもたちをつなごうことに役立つのであれば、教材制作の意義も一段と深まる。漫画を採用するという提案に異論なく教育局からOKが出たことも嬉しかった。漫画の原案、漫画家、制作者の選定も日本側に任せてくれた。漫画「大連物語」は、中国で出版された、最初の日本語による日本の漫画である。

今号では、特にこの理念に焦点をあて、理念を飾り物として終わらせずに、教材の細部にまで浸透させる努力をしたことを紹介し、外国語教育の素晴らしさを伝えたいと思った。多くの教科のなかでも、目標や内容、方法さえ適切

に設定されれば、外国語は21世紀に必要とされる資質を育てることのできる最も有力な教科になると思う。OECDが提唱するキー・コンピテンシーも、can-do statementsの設定過程で取り込んだ。未知なる言語を楽しく学び、学んだことばや文化理解の視点を土台に、実際に母語話者と交流するところまでを外国語教育の必須領域として含めることができれば、教科としての可能性は広がる。もちろん文法中心の受験のための外国語教育であれば望めない話である。

人と人をつなぐことば、自己を表現し相手を理解することばの力を改めて認識し、時空軸における自分の立ち位置を把握する力を身につけることができる外国語学習は、自ずと世界のさまざまな人とつきあっていける力を育ててくれる。

大連市の小中高校における日本語教育は今や危機的状況を脱し、現在、推定1万2,000人以上の小中高校生が日本語を学んでいる。日本の学校との交流も増え始めている。また今年の3月には、横浜の中学生7名を特使として派遣し、大連の中学生と交流する特別事業も実施した。

「外国語を学ぶということは、好朋友(ともだち)が星から落ちてくるようなものだ」、ということ象徴させるべく、漫画の物語は、星が降ってきたという伝説のある大連の海辺に、主人公の美佳が流れ星に乗って落ちてくることから始まる(現実には横浜からくるのだが)。ドラマチックに日本語が学べた、という中学生のことばが嬉しかった。多くの子どもたちに、星が好朋友を運んでくれたらと思いつきながら教科書を作った。

中野佳代子

## 財団法人 国際文化フォーラム THE JAPAN FORUM



国際文化フォーラム通信 87号  
2010年7月発行

発行人・編集人 中野佳代子  
デザイン・DTPオペレーション 飯野典子  
フォーマット設定 鈴木一誌  
出力・印刷・製本 凸版印刷(株)  
校閲・校正 石井雅男・松木万里子

### 財団法人 国際文化フォーラム

〒112-0013 東京都文京区音羽1-17-14  
音羽 YKビル3階  
TEL 03-5981-5226 FAX 03-5981-5227  
E-mail: [forum@tjf.or.jp](mailto:forum@tjf.or.jp)  
<http://www.tjf.or.jp/>